

REPORT
2007
9/27
午前

SPRINT

[Senior People's Resources In North Toronto, INC.]

※レクチャーを受けた後、2班に別れ、認知症グループホームと
デイケアセンターを視察

老人



相互に人間関係を築ける地域密着型介護施設

佐賀県 御船荘 福島 博

SPRINTは、地域ボランティア理事会により運営されている非営利団体であり、高齢者や障害を持つ人びとへ地域社会生活の支援を行っているほか、さまざまなタイプの住居の提供なども行っている。

その支援には、認知症ケアも含めた在宅ケア、家事、訪問サービス、電話でのセキュリティチェック、介護者支援、送迎、社会福祉事業などがある。

そのSPRINTが運営している中のひとつの『Ewart Angus SPRINT Homes』は、20名の認知症中度程度の人びとのために快適な暮らしを提供する住居であり、自宅で安全に暮らすことのできない人びとや、長期介護施設で介護を受ける必要のない人びとのための住居である。

介護のある非医療施設で、スタッフは居住者の自活を支援し、居住者は自己を築いていくという考えに基づいていることから、日本でいう「グループホーム」といった感じである。

その『Ewart Angus SPRINT Homes』は『ANGUS HOUSE』と呼ばれる建物の中にあり、自立している高齢者は1～3階の広いアパートに住んでおり、認知症の20名が『Ewart Angus SPRINT Homes』として知られている4階と5階に5名を1ユニットとして、個に重点を置くと共に、相互に人間関係が築けるような支援を行っている。

このことについては、まさに地域に溶け込むという感覚であり、現在日本の高齢者福祉が目指す、地域密着型介護施設ではないだろうか。

カナダという国の医療や福祉制度は非常に魅力的なものではあったが、日本とはあまりにも文化や環境といった違いがあり比較することはできない。

ただ、視察した施設では‘尊厳・尊重’という言葉を多く耳にしたが、多民族国家であるカナダでは、まずは相手を受容することから始まっており、福祉に携わる私たちにとって、現在最も考えなければならない部分であるように感じた。

また、社会保障制度は縦割りのシステムではなく、相互の連携が非常に取れた、利用者や関係者にとっては理解し利用しやすい制度であり、本来の社会保障制度のあるべき姿ではないだろうか。



「ANGUS HOUSE」入口